



令和8年4月1日、社会福祉法人いたるセンターは、新入職員3名を迎えました。
新年度も「選ばれる法人づくり」を推進し、積極的に優秀な人材確保を進めてまいります。



目次 contents

- 01 令和7年度
理事長
職務執行状況報告
 - 02 事業所通信
事業部からの情報発信
 - *阿佐谷福祉工房
 - *あけぼの作業所
 - *イタル成城
 - *目黒本町福祉工房
 - *包括ケアセンター・グループホーム
 - *サポートウイズ
 - *クローバー・マルコ
 - *すまいる高井戸
 - *ビヨビヨおうちん(保育)
 - 04 事業所通信
事業部からの情報発信
 - *さんまるしえ
 - *SDGs推進室
 - *パン工房プクプク
 - *法人本部
- QRコードのご案内
いたるセンターホームページ
いたるセンターInstagram
いたるセンターフェイスブック

令和7年度 理事長職務執行状況報告

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 勝崇

①人材の採用・育成・定着に向けた取組の強化

令和7年度の入退職者は、入職者62名、退職者59名で、福祉人材の確保は一定量保たれており、正職員の定着率は順調に上昇しています。今年度は新卒採用についてもリクルートサイト活用を進め、積極的に活動を行い、現在3名の入職者が確定しています。

人材育成については、障害者支援研修「ラーニング「サポーターズカレッジ」の活用促進に加え、障害者虐待防止・権利擁護研修、身体介助技術の復習研修を行い、重度化・高齢化する利用者支援の質的向上を図りました。保育士については、乳幼児の安全確保をテーマに、誤嚥防止・転倒防止など、実技を交えた研修を行いました。

労働環境の整備については、年間休日数の拡大、就業時間の短縮を図り、福利厚生充実と実質上の賃金アップを進めました。今期は年末年始手当（共同生活援助・短期入所・移動支援・

訪問看護）の倍増を実現し、就業条件と労働環境のさらなる向上を図りました。

新人事考課制度についても、引き続き個別人事評価を10段階に、賞与の月数の増減ピッチを0.1ヶ月とし、令和7年度夏季・冬季賞与に反映。職員のモチベーションを上げ、「やりがい」を提示し「対価」で報いる方針を具現化しました。

また、マネジャー会議をはじめ、再編した委員会活動、外販活動などに参画することで、事業部・事業所の枠を超えて、職員がコミュニケーションを深めました。チーム（法人）の一員としての自覚を再確認する機会を増やすことで、協働・連携できる体制の基盤整備を図ることができました。

②事業基盤強化への取り組み

今年度の事業基盤強化策としては、いたる相談室が一般相談支援事業を追加、代わって高齢者介護部門の居宅介護支援事業から撤退し、サポートウイズ全体で障害者支援への強化を

図り、人的リソースの集中化を図りました。

各事業所へのデコ入れを通じて得た知見と経験を積み上げていくことで、法人全体の最適な事業方向を可視化し、今後の事業ドメインの再検証および中長期事業計画の策定に活かします。

③共同生活援助（グループホーム）事業の活性化と老朽化対策

包括ケアセンター・グループホーム事業部の活性化を通じ、経営の効率性や採算性が順調に向上しました。老朽化の進むグループホームの移転や建て替えについては、茨窪北マンションのスケールメリットを活かし、杉並エリア全体の再配置を段階的に実施。老朽化の進む施設の建替え時の仮入居先としての活用を検討しています。

また、定期借家契約が満了後、更新ができない施設についても、将来的なビジョンを明確にし、中長期的展望で再構築してまいります。これらの移転・建て替えに備え、「施設整備備蓄立」を実施し、現在6千万円を計上しております。



事業部からの情報発信・事業所通信

■さんまるしえ

店長 表尚哉

さんまるしえでは、2026年4月1日よりドリンク類の価格改定を実施いたします。

昨今の物価上昇に伴い、コーヒー豆など原材料費が高騰し、現行価格での運営が難しい状況となっているためです。

具体的には、コーヒーを300円から450円へ改定いたします。なお、改定後も一般的な価格と比較すると低水準を維持しております。

あわせてコーヒーの淹れ方を見直し、より美味しさの向上を図っております。一方で、高齢の常連利用者が多いことから、利用控えのリスクも想定されます。

今後は接客時のコミュニケーション強化やサービス向上により、満足度の維持・向上に努めてまいります。

■パン工房プクプク

統括リーダー 池田史暢

昨年3月より取引先の保育園様に対し、給食パンの受発注システムを導入し約1年が経過しております。各保育園の皆様にも概ね好評で私たちの業務も改善しました。しかしながらまだまだ見直す余地があり今後の課題となっています。今期は大型スライサーによるスライスのバリエーションを増やすことを試行して業務の効率化・改善につなげていきたいと考えております。数年後にはあらゆることをご利用者様主体となって一連のオペレーションができるように構築していきたいと思ひます。



■法人本部

総務広報 統括リーダー 山本聖示

社会福祉法人いたるセンターでは、約半年間をかけて法人ホームページおよび法人案内のリニューアルを行いました。ホームページでは、現状の事業展開に即したコーポレートサイトおよび若手職員のインタビューを中心としたリクルートサイトを作成。人材採用の強化につながる素地を固め、「選ばれる法人づくり」の「見える化」にチャレンジしています。法人を取り巻くすべてのステークホルダーにとって、有益な情報をリアルタイムでお伝えできる媒体となるよう、職員一同尽力してまいります。

■SDGs推進室

統括リーダー 渡邊菜都

当事業部の2026年度の方針は「ミスを起こさない体制づくり」を最重要テーマとして掲げ、業務手順の徹底と仕組みの強化に取り組んでまいります。作業の標準化を進めるとともに、関係企業様との連携や指導員間のコミュニケーションをこれまで以上に密にし、情報共有の質を高めることで属人化の解消を図ります。

また、誰が担当しても同じ水準で業務を遂行できるよう、マニュアル整備や声掛けの充実にも力を注ぎます。メンバーさん、関係企業の皆様に安心していただけるサービス提供を目指してまいります。



いたる広報委員

発行責任者＝谷山 勝崇
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2026年4月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと





事業部からの情報発信・事業所通信



■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏



2月25日に菅原光朗氏による和太鼓演奏会を開催しました。本格的なプロの演奏を楽しむと同時に、ご利用者が参加した演奏もあり、熱気にあふれる1時間でした。

3月16日には日本フィルハーモニー交響楽団による弦楽四重奏演奏会を開催しました。比較的なじみのあるクラシックの名曲からとなりのトロの『さんぽ』などのポピュラーな曲まで1時間にわたり演奏してくださり、ご利用者もじっと聞きほれたり、一緒に歌ったりされていました。これからも本格的な音楽に触れる機会を作っていきたいと思います。



■あけぼの作業所

施設長 山田弘子

2026年度、あけぼの作業所では職員配置をグループ配置から事業部配置へと変更し運営して行きます。ご利用者は現状通りグループで活動しますが、職員は流動的にグループ間を動く形になります。

新たに関わるご利用者、新たに関わる作業や活動の中で見えた気づきや疑問、改善点などを職員同士こまめに共有し、よりよい支援、よりよい事業所につなげていきたいと考えています。



更に、あけぼのマルシェの開催、地域の行事や会議の参加など、積極的に地域との交流を行い、地域の方々にあけぼの作業所を知っていただく機会を作ります。

2026年度もご利用者と職員、そしてご家族等と協力し合い、あけぼの作業所を盛り上げていきたいと思っています。

■イタル成城

施設長 安倍真紀



3階のグループホーム パンプルのエレベーターホールに、小さな胡蝶蘭があります。これは2017年のいたるセンター50周年記念式典の際に頂いたものです。2024年の春におそらく二度目の開花をし、それからしばらく緑の茎だけになっていました。また花を咲かせるのだろうか、それともこのまま朽ちていくのだろうかと思いつきながら、パンプルのご利用者や職員が水をやりながら育てていました。今年に入り蕾が付き、これは…と少々期待をしていたところ、三度目の花を咲かせました。胡蝶蘭と言えばお祝い事などでも使われるほど華麗に艶やかに咲くイメージですが、パンプルのそれは、華奢に見えて静かに力強く咲いています。胡蝶蘭の花言葉は「幸福が飛んでくる」です。三度咲かせた花と共に、2026年度も幸福が飛んでくるよう、楽しく充実した環境をつくれるよう進めていきたいと思っています。

■目黒本町福祉工房

統括リーダー 串田武照

午(うま)から未(ひつじ)へ。早くも来年の干支土鈴作りが始まっています。来年は正面を向いたモコモコな「絵馬型」と羊毛の重量感に拘った「動物型」の2種類。特に苦労したのは、羊ならではの「ふわふわ感」の表現です。利用者の方々作りやすく、かつ丈夫で愛されるデザインを目指し、チームで熱い議論を重ねて決定しました。若い世代の方々にも手に取ってもらえるような、「オリーブ」や「ラベンダーブルー」等、土鈴の常識にとらわれないモダンな色を選びました。干支土鈴は厄除けの意味もあり、縁起物として親しまれています。新年に彩りを添える一品。どうぞお楽しみに!

来年の干支
ひつじ
未土鈴が
まもなく形に!



■包括ケアセンター・グループホーム ゼネラルマネジャー 五木田義之

引越しが決まりました。

1989年築、当法人グループホーム第1号寮として1998年に開設した「いたるホーム」を、このたび取り壊し、新築する運びとなりました。私が入職した翌年にオープンした当時は男女混合寮で、女性の世話人さんを中心に、和やかで5人暮らしのこじんまりとした雰囲気の中、グループホームとして地域で暮らしを支える取り組みがスタートしました。それから28年が経ちました。人も建物も年を取るわけです。入居者の皆さんが通所先に出払った後、靴お床を伝いながら、いたるホームに感謝を伝えました。

今では15棟23ユニットで120名定員の大所帯となった事業体は、地域で支える皆さまの支えの元、移転・建替え等少しずつ環境整備を進めながら、苦楽を分かち合う場所として事業を継続してまいります。引越し先は荻窪北マンションで、14名が暮らし、部屋も1つ増えて4ユニット体制になります。このたびの移転にあたり、ご理解とご協力を賜りました入居者およびご家族、そして理事長をはじめ職員関係者の皆さま、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■サポートウイズ

マネジャー 林平



私たちは、相談支援、ガイドヘルプ、訪問看護事業を通じて、地域で暮らす皆さまの「その人らしい日常」を支えています。ご利用者さまには、重度の行動障害や精神疾患のある方もいらっしゃる、時には緊張感のある場面に向き合うこともあります。そんな中、「あなたが来てくれるといつも笑顔になる」と話してくださったご家族さまの言葉に、支援者の存在そのものが安心につながっていることを実感します。

私たちの強みは、法人内の各事業が日頃から連携し、支援を“チーム”で考えられることです。訪問看護が健康面の変化を共有し、相談支援が生活全体の課題を整理し、ガイドヘルプが外出時の様子を伝える。こうした情報が一つになることで、利用者さんの小さな変化にも気づき易くなり、より安心できる支援につながっています。

日々、現場で丁寧に向き合い続けるスタッフ一人ひとりの姿勢が、サポートウイズ事業部の力の源です。

■クローバー・マルコ

統括リーダー 加藤大貴

春暖の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、昨年度も宿泊等多くのご利用者の方にクローバーをご利用いただき誠にありがとうございました。今年度もご自宅や通所先等以外で憩いの場となるよう「第3の場所」としてクローバーをご利用していただけるよう、安全安心な施設をご提供していきます。

何卒宜しくお願い致します。



■すまいる高井戸

センター長 若山大地

つどい会

3月21日に一足早いお花見に行きました。善福寺緑地で桜を見学し、みんなでケーキを食べました。天気も良く、気持ちの良い時間でした。その後、障害者福祉会館へ戻り、来年度の計画を話し合いました。つどい会は参加者が主体となり、会を運営しています。皆さん真剣なまなざしです。



ラベンダーの会

3月5日に妄想旅行の発表会を行いました。妄想旅行は、自分が行きたい場所を選び、選んだ理由や交通費、宿泊費を調べ、発表するものです。場所は海外から国内まで、選んだ理由は、食べ物や大自然、建築物など、様々でした。一人一人がなぜ行きたいのか、自分の言葉で伝えられ、見学者から大きな拍手が送られました。



■ピヨピヨおうちえん

園長 黒川幸恵



春はお別れと出会いの季節となり、ピヨピヨでも2歳児クラスの卒園式「大きくなったね会」を両園とも開催いたしました。ピヨピヨらしい普段の保育の雰囲気や姿の中で、お子様の成長を保護者の皆様と一緒にお祝いいたしました。4月から新しい環境で過ごす卒園児たちを今後は地域として引き続き見守っていきたくて思っています。

そして4月から新しい新入園児のお子様をお迎えし気持ち新たに新年度がスタートいたしました。一日でも早くピヨピヨに慣れ、保育園が安心できる楽しい場所となりますよう、職員一丸となり、笑顔と愛情いっぱいに接していきたいと思っています。

ぜひ、地域の皆様も見学いらしてください。